

赤團長 片山少將

下達法口達後印刷交付

九月十二日

一 各支隊ノ行動

(一) 鈴木討伐隊

七時三十分蒲上里出發ニ縱隊トナリ途中成敵ヲ掃蕩シツ、平斗馬(安豊鎮東方五料)ニ向ヒ前進中主力ハ安豊鎮東方三料閃鎖曲嶺高地ニ於テ五、六十ノ敵ヲ東方ニ撃退セリ續テ平斗馬ニ於テ約百ノ敵ヲ攻撃コレヲ東方ニ潰走セシメ十時杣樹馬(西寨鎮西北方)ニ進出宿營ス

(二) 池邊討伐隊

早朝池邊溝出發及途中成敵ヲ掃蕩燻滅シツ、十字岩(池邊溝東々北十六料)ニ向ヒ前進中主力ハ十時横嶺鎮(池邊溝東々南八料)ニ於テ約七、八十ノ敵ヲ急襲ス

之ヲ西方山地ニ追撃シ其ノ一部ヲ捕拏殲滅シ十九時ニ
介由崎村ニ進出宿營ス 一部ハ二十時同地ニ進出セリ

目 田中討伐隊

陽泉ニ於テ爾旨ノ行動ヲ準備中ナリ

四 徳五討伐隊

陽泉ニ於テ爾旨ノ行動ヲ準備中ナリ

二 敵情

○管内共産軍最近ニ於ケル鉄道破壊企圖

ノ敵ハ依然舊日備隊ヲ攻撃スルト共ニ小人員ヲ以テ

秘密裡ニ交通通信線ヲ破壊シ相當巧妙ナルモアリ

之ハ月中旬以降北上シアリシ敵ハ再ヒ沱縣附近ニ南下

シ交通線ノ破壊ヲ企圖シアルモノ、却テ其ノ行動消滅

ナリ

3. 沱縣舊日備隊ノ得タル情報ニ依レハ敵ハ指命トシテ

舊日月下旬ヲ以テ交通線破壊テ——卜定メ長期

ニ亘ル交通信線破壊ヲ命シアルモ、如シ

(三)

九月初旬官城鎮(和順西方四料)附近ニ於テムカイナイト

ニマ箱(官)林租ト明記セルモノ)ヲ北方ニ運搬スル敵ヲ

目撃セリト(捕虜トナリタル上湖隊長ノ言(官本)確度甲)

以上三三項ヨリ併断スルニ敵ハ尙相管官長以期間鉄道

破壊ノ繼續テ企圖シアルモト併断ス

各討伐隊ハ掃蕩ニ方リ隠匿セル爆薬ノ索出ニ務ム

ルト共ニ鉄道沿線ノ各警備隊ハ警備ヲ嚴シ注

意スルヲ要ス

三 旅團長ハ獨漉四旅作命甲第六七九號ヲ下達シテ

徳五原田西地區警備隊長以ニ爾後ノ作戦ノ多ク

敵情ヲ捜索セシム

獨漉四旅作命甲第六七九號

獨立混成第四旅團命令 九月十一日 備千介 陽 泉

一 軍ノ第三期作戦ハ延期セラルハキ狀況ニアリ

ニ旅團ハ赤ク娘子関北方、孟津北方西煙鎮附近ノ敵
對シ作戰スル企圖ヲ有ス

三徳五、石田両州地區警備隊長ハ鐵道警備ノ整理強
化ヲ實施セシツ、敵情ヲ搜索シ爾後ノ作戰ヲ準備スヘシ

四三ノハ陽泉戰鬪司令官ニ在リ

旅團長 片山少將

下達法 電報、口達後印刷交付

四 旅團ハ石太線南方地區ノ警備ヲ復行セントシ十時獨

混四旅作命甲第六七號友六七七號ヲ下達ス

獨混四旅作命甲第六七六號

獨立混成第四旅團命令 九月十一日十時 陽泉

一田中大隊(廣野中隊欠鈴木部隊在藤山中隊欠屬)ハ獨

混四旅作命甲第六五三號發給後再領ニ依リ明十一日早朝

陽泉出發企圖不セルモノニ拘ラヌ左ノ如ク行動シ所在ノ敵友

敵性分子ヲ燻滅スヘシ

十三日陽泉狼新村馬家庄ニ沿フ地區ヲ馬家庄附近ニ

十四日上龍泉下龍泉附近ヲ肅清シツ、里溝山附近ニ

十五日亦尚鎮東北地區ヲ肅清シ陽泉ニ

旅團長 片山少將

下達法 隊長ニ口達後筆記セルモテ交付

獨混四旅作命單第六七七號

獨立混成第四旅團命令 九月十一日十時 陽泉

一 旅團六百餘南方地區ヲ肅清ヲ復行セントス

田中大隊ノ行動別紙獨混四旅作命單第六七六號ノ

如シ

二 徳五大隊長ハ獨混四旅作命單第六五三號委員並要領

ニ據リ臨時配屬團中隊ヲシテ明日早朝陽泉出發

圖不セルモノニ拘ラス左ノ如ク所在ノ敵及敵性分子ヲ燻

滅セシムヘシ

(一) 横田中隊(小型無線機一臺)八十三日王七嶺(波頭驛南
方約六件)南方高地ニ判リ之ヲ根據トシ其ノ周邊ヲ
肅清シ十五日陽台ニ歸還スヘシ

(二) 中村中隊(無線機一臺)八十三日太子花溝(旧街
南々西約八件)二十四日門家(左)陽台(南)方六件ニ判リ
其ノ周邊ヲ肅清シ十五日夕壽陽ニ判リ爾後ノ行
動ヲ準備スルモノトス

三 無線通信ニ関シテハ旅團通信隊長区ニテ區署有ス
ハシ

旅團長 片山少將

下達法 大隊長ニリ達後印付交付

旅團長公山小隊ヲシテ壽陽ヨリ彈藥界材友在壽陽

斐田小隊ヲ陽台ニ輸送セシムヘク左記獨混四旅作命

甲第六八一號ヲ下達ス

獨混四旅作命甲第六八一號

獨立混成第四旅團命令

有十五日午時
陽台

丸山由尉ハ部下小隊輕裝裝由由車一小隊ヲ除キ兵衛自
勦車一小隊ヲ討スヲ以テ明正日八時陽白泉出發壽
陽ニ到リ自勦車箱二十四輛隊ノ輸送スル彈藥岩
材友在壽陽ノ菱田小隊ヲ回日由中ニ陽白泉ニ輸送
スハシ

丸山由尉ハ壽陽別前後部下一分隊ヲ指揮シ壽
陽一段廷西ノ橋架木間ノ各警備隊ニ連絡シ十有
正午迄ニ壽陽ニ歸還スハシ

壽陽ヨリ歸還輸送ノ指揮官ハ菱田由尉ト交代
スハシ

細部ハ參謀ヲシテ指示セシム

二兵站自勦車第四十六中隊長ハ一小隊(二輛)ヲ十三日八時其ノ兵
全口ニ於テ丸山由尉ノ指揮ヲ受ケシムヘシ

又別ニ兵站自勦車一小隊(十六輛)保護隊トシテ以テ明正日八時
陽泉出發遼縣糧秣ヲ輸送シ十四日在遼縣長峰中隊

ヲ陽泉ニ輸送セシムヘシ

三輸送ノ細部ニ關シテハ兵器班長旅團高田級經理官ノ
指示ヲ受クヘシ

旅團長 片山少將

下達法 〇達後印劍交付

九月十三日

一 各支隊ノ行動

各討伐隊ハ予定ノ進路ヲ前進シテ所於テ辛シテ餘喘ヲ
保チツツアルヲ殘敵ヲ掃蕩ス

(一) 鈴木討伐隊

早朝部隊ハ二縱隊トナリ途中汎道ヲ燼滅掃蕩シツツ
潘家掌ニ向ヒ前進中

(二) 池邊討伐隊

早朝一栗崎村出發途中汎道ヲ掃蕩燼滅シツツ石匣村
ニ向ヒ前進 十三時三十分石匣村ニ進出楠社西南方地區ノ

討伐ヲ準備中ナリ

(三) 田中討伐隊

七時陽自水出發及狼許村馬家庄ニ沿之地區ヲ掃蕩燼滅シツツ馬家庄ニ向ヒ前進中ナリ

(四) 德江討伐隊

横田中村兩中隊ハ夫々本十三日陽自水出發五七歳ニ被頭南方六料(南方高地)李子花溝(旧街南々西八料)ニ向ヒ前進シ横田中隊ハ沿道ヲ燼滅シツツ十七時五七歳ニ進出ス

中村中隊ハ李子花溝ニ向ヒ前進セルモ東澁線方面轉進ノ為及轉陽自水ニ向ヒ前進中ナリ

(五) 原田討伐隊

壽陽ニ在リテ同地北方地區ニ討伐ヲ準備ナリ

ニ敵情

一 東澁線方面

ノ三九師三八五旅ハ柳樹溝輝教(來遠鎮東々北約三四
 料)附近ニ蟠踞シ最近同地附近ニ蠢動シアルモノ如シ
 2. 右三八五旅ノ營口長ハ最近子洪鎮以南ノ村長ヲ招集
 シ九月十八日ヲ期シ東潞線ヲ襲撃スヘキヲ以テ之カ附
 カオヲ命シタリト

(二) 共產軍ハ東潞線及同蒲線襲撃ヲ企圖シアリ

ノ東潞線東方山地ニ八九師及白晋游擊隊ノ各一部
 約一千九月十八日ヲ期シ東潞線襲撃ヲ企圖シアルモノ
 ノ如シ

2. 汾陽地區共產軍ハ陰曆八月十五日(仲秋節)ヲ期シ反
 攻ヲ企圖シ準備中ナリト

(三) 武鄉方面ノ敵情

ノ西賈嶺鎮附近ニ在リタル三八六旅ノ一部(約一千)ハ有鎮
 附近ニ移動セルモノ如シ

2. 武鄉南方北高嶺龍王堂村及王家溝附近ニハ約一千

ノ敵アリ、其ノ一部ハ東不滿線方面ニ移動セリト

3 湧泉鎮義門附近ニ夫々ニ三日ノ敵アルモノ如シ

(四) 孟縣方面ヨリ南下セル第五團(陳相林)ノ約一千八岳家

庄(巨成鎮北方約六料)附近ニ第十九團ノ約四百八西

家庄附近ニ夫々蟻踞シアルモノ如シ

三 旅團一部ヲ以テ雲簇鎮附近ニ蟻踞スル敵ヲ燼滅シ

東滿線ニ對スル敵ノ企圖ヲ封殺スヘク獨混四旅作命甲

第六八二號ヲ下葺ス

獨混四旅作命甲第六八二號

獨立混成第四旅團命令 陽月十三日十九時

一 敵三八五旅主力ハ雲簇鎮西北地區ニ在ルモノ如ク

東滿線龍家屯ヲ揚言シアリ

永野支隊ハ今十三日十三時以來、輝教行盤鎮北方約

十五料附近ニ於テ優勢ナル敵ト對戰中ニシテ白方支隊

八時十四日十三時彭温庄(范村鎮東南方約十五料)附近

ヲ出發シ永野支隊ニ協力スル旨

二 旅團ハ一部ヲ以テ雲簇鎮附近ニ蟠踞スル敵ヲ熾滅シテ
東澗線ニ對スル敵ノ企圖ヲ封殺セントス

三 齊藤中佐ハ石匣村ニ於テ現池邊討伐隊ノ大隊砲
小隊山砲小隊工兵小隊大隊行李輜重ノ大部ヲ殘置
シ十四日自動車ヲ到着スル獨歩十二ノ中村中隊ヲ併セ
指揮シ十五日早朝出發楡社雲簇鎮北側分水嶺ニ沿
テ進路ヲ前進シ所在ノ敵ヲ悉ク滅スヘシ
狀況之ヲ要スレハ永野支隊ト協力スヘシ

分水嶺附近到着自八九月十七日夕ト豫期ス
部隊ノ稱呼ハ依然池邊討伐隊トス

四 前項石匣村殘置部隊ハ十四日先任者ノ指揮ヲ以テ
遼縣ニ至リ池邊地區盤詰備隊長ノ指揮ニ入ルヘシ

五 池邊地區盤詰備隊長ハ池邊討伐隊(齊藤中佐ノ
指揮スル部隊)ノ編成ヲ担任スヘシ

遼縣警備隊前隊下シテ無視一分隊ニ號機ヲ由村中隊
ト同行セシム

大予八陽給取戦闘司令前ニ在リ

旅團長 片山少將

下達去ニ集團參謀長、板井地區警備隊長及池上部隊
長、池邊地區警備隊長及池邊討伐隊長ニ電報

後印刷交付

四 旅團長ハ獨混四旅依命甲第六八三號ヲ下達シ由村
中隊ヲ有藤山佐ノ指揮下ニ入レ池邊地區警備隊配
屬工兵ヲ旅前屬復歸セシム

獨混四旅依命甲第六八三號

獨立混成第四旅團命令 昭和十七年十月二十日

一 由村中隊宋馬一駄馬三以外ノ馬匹ヲ除ク明十四日自
動貨車ニヨリ石匣村ニ至リ有藤山佐ノ指揮ヲ受ク
ハシ

二、北邊地區警備隊配屬至兵六十五日自勦車一依り陽
泉ニ判り原前屬三復歸入ヘシ

三、兵站自勦車第四十六中队隊長ハ明十四日七時四十分自
勦車一隊(全朝)爲積三朝之念迄ヲ他五部隊兵營ニ差
出シ山中村中隊ノ陽泉歸着後ニ時間以内ニモ發前
頂部隊及彈藥ヲ石匣村ニ輸送シ翌十五日北邊地
警備隊配屬至兵六日隊ヲ輸送シ陽泉ニ歸卷スヘシ
四、三八陽泉戰闘司令部在リ

旅團長 片山少將

下達去 北邊部隊ニ再自ヲ電報其他ハ電報ノ後

印刷交付

五、旅團長ハ入五隊ニ編入セル他隊人員ヲ原前屬三復
歸セシムハク左記獨混四隊使命甲第六八四號ヲ下
達ス

獨混四隊使命甲第六八四號

獨立混成第4旅團命令

九月十五日 陽泉

一、鈴木部隊長ハハ五隊ニ補ハセル化隊人員ヲ左ノ如ク原部屬ヨリ復歸セシムヘシ

獨歩一三六、一四六、一五六部屬ノモ

十五日 薩兵中隊長ノ指揮ヲ以テ陽泉ニ

獨歩一三六部屬ノモ

十五日 森縣ニ到ル自前申ニ依リ森縣ニ

又佐藤ノ馬込ハ薩兵中隊長ノ指揮ヲ以テ陽泉ニ到

ラシメ原部屬中隊ニ復歸セシムヘシ

二、支那語小隊長ハ入五隊ヨリ原部屬ニ復スヘキ獨歩

一三六、一四六ノ人員ノ陽泉着後同地出發及返其編成ニ

入ルヘシ

右陽泉出發及返シテハ參謀ヲシテ指示セシム

三、予ハ陽泉小戦闘司令部ニ在リ

旅團長 片山少將

下達去 印刷交付

九月十四日

一 各支隊ノ行動

(一) 鈴木討伐隊

途中沿道ヲ掃蕩燼滅シツ、十三日夕番家守宇兵
力ヲ集結ス

十四日七時番家守宇出發及ニ縦隊トナリ由家守宇
道ニ沿之地區ヲ掃蕩燼滅シツ、十三時若陽ニ歸營セリ

(二) 池邊討伐隊

石匣村ニアリテ柳社西南方地區ノ討伐ヲ準備ス

(三) 田中討伐隊

吾師宿營ノ地ヲ出發及馬介川上下麓泉以南小西溝
以西嶺地帯ノ徹底的燼滅ヲ實施セシメ十九時五十分上
二部ハ陳列在ニ進出ス

(四) 横田中隊ハ早朝至七嶺出發若所寺岡邊ノ燼滅掃

蕩ヲ谷貝池ニ十九時ニ分ニ至嶺ニ進出ス

(五) 中村中隊六十八時陽泉利着續テ自前車行ニ依
リ石田村ニ前進ス

(六) 原田討伐隊六時壽陽出發及十七時ニ角山附近ニ
進出セルモ敵ハ既ニ西山村ヲ經テ北方ニ退却由ナリ
部隊六十八時該地ニ出發自前車着路通信線
ノ補修ヲナシツ、壽陽ニ向ヒ前進由ナリ

二 旅團長ハ渡邊中隊ヲ旅團直轄タラシムヘク

獨混四旅依命由第六八五號ヲ下達ス

獨混四旅依命由第六八五號

獨立混成第百旅團命令

九月十四日十六時
陽 鬼

一 鈴木討伐隊長ハ昔陽歸還ト同時ニ渡邊中隊
ヲ旅團直轄タラシメ該隊長昔陽帯在間宿營自給
着ヲ担任ス(シ)

二 渡邊中隊ハ旅團直轄トシテ昔陽ニ在留ス(シ)

三予八陽泉賦闘司令前ニ在リ

旅團長 片山少將

下達法電報後印刷交付

三旅團長ハ獨浪四旅休命甲第六八六號ヲ下達シ
別働隊ノ縮成ヲ解ク

獨浪四旅休命甲第六八六號

獨立混成第四旅團命令 九月十四日十六時
陽泉

一別働隊ノ縮成ヲ解ク

二獨立輕裝甲車第之巾隊ノ小隊ハ九月十五日陽泉

迄及原前首編ニ復歸入リシ

三前項以外ノ部隊ハ九月十五日各々原前編ニ復歸セシム

四予八陽泉賦闘司令前ニ在リ

旅團長 片山少將

四旅團長ハ原田地區鉄道沿線警備隊ヲ視察シ
獨浪四旅休命甲第六八七號ヲ下達シ勝山小隊ニ

151

1669 ~~1675~~

陽泉——壽陽間ノ掩護ニ在セシム

獨混四旅少佐命田第六八七號

獨立混成第四旅團命令

陽泉 九月十四日 辨

一 本職明十五日原田地區鉄道沿線警戒備地區ヲ

視察ス

二 勝川少尉ハ支那語修習小隊(兵站自動車小隊

乗用車ニ旗ハ電筒機一附スヲ以テ明十五日陽泉

——壽陽間ノ掩護ニ任スヘシ

又歸路中大隊ノ弘野中隊ヲ陽泉ニ輸送スヘシ

三 兵站自動車第四中隊長ハ兵站自動車小隊

(九輛)ヲ明十五日七時十分迄團司令部構内ニ差出シ

勝川少尉ノ指揮ヲ受ケシムヘシ

四 高級參謀 山田副官 旅團高級隨官 高級經

理官 高級獸醫官 兵站班長等ハ隨行スヘシ

152

~~1676~~

1670

五、予ハ陽泉駐關司令所ニ在リ

明十五日七時三十分陽泉出發以壽陽ニ到ル

旅團長 片山少將

下達法口達後印刷交付

五、旅團長ハ獨混四旅団作命甲第六八八號ヲ下達シ

鈴木部隊長ヲシテ昔陽東南方地區ノ敵ヲ討伐

セシム

獨混四旅団作命甲第六八八號

獨立混成第四旅團命令 九月十四日 三時

一、渡邊中隊及在昔陽山麓兵中隊ノ一小隊(分隊)

ハ鈴木部隊長ノ指揮ヲ受ケ十六日ヨリ十八日迄ノ討

伐ニ参加スヘシ

二、鈴木部隊長ハ前頭部隊ヲ併セ指揮シ昔陽東

南方地區ノ敵ヲ討伐シ該隊ヲ十八日^昔陽ニ集積

スヘシ

三子公陽泉獻關司令節在

旅團長 片山少將

下達法 電報後印刷交付

九月十五日

一 各支隊ノ行動

(一) 鈴木討伐隊

昔陽在リテ向地南方地區ノ討伐ヲ準備ス

(二) 池邊討伐隊

六時三十分石匣村出發舗上——榎社ヲ經テ板橋ニ至

出ス

(三) 田中討伐隊

早朝夫々上流鎮及陳家庄出發途中沿道ヲ肅正シ

ツ、十八時陽泉ニ歸還ス

(四) 徳五討伐隊

横田中隊ハ早朝五七嶺出發北苑村——護家峪——賽

奥村道三が之地區ヲ掃蕩シツ、陽泉ニ歸還ス
中村山内隊ハニ時登懸ニ到着有續テ石尾村ニ到リ池邊村
隊隊長ノ指揮ニ入ル

(五) 原田討伐隊

早朝壽陽ニ歸還シ爾後ノ行動ヲ準備ス

三 旅團長ハ獨混四隊ヲ命甲第六八九號ヲ下達シ

原田地區鐵道警備隊ヲ備隊兼設ク爲エ兵ヲシテ作業
ノ指導ヲ援助ナサシム

獨混四隊ヲ命甲第六八九號

獨立混成第四旅團命令 九月十五日 壬午 陽 泉

一 原田地區鐵道警備隊ノ備隊ノ鐵道警備施設ノ爲エ兵
ヲシテ作業ノ指導ヲ援助ナサシム

二 旅團王兵隊長ハ十六日四時出發壽陽ニ到リ原田警
備隊長ノ同地區内鐵道線警備施設ノ偵察ス

協力スヘシ

三原田警備隊隊長ハ兵隊長ノ壽陽到着ヲ待テ
偵察ホテ安員迄スヘシ

四兵部自衛隊第四十六中隊長ハ兵部自衛隊
ヲ兵隊長ノ指揮下ニ入ラシムヘシ

五予ハ陽泉戰鬥司令部ニ在リ

旅團長 片山少將

下程迄電報後印刷交付

四十五日ニ於ケル晋中第一期復行作戰戰鬥経過別
紙要圖ノ如シ

九月十六日

一各支隊ノ行動

(一)池邊討伐隊

本朝榆社共及予定ノ進路ヲ前社向ニ前進由十時
西進庄(雲谷嶺東北)附近ニ於テ陣地ヲ占領シアリシ

敵七三團ノ村ニ日ヲ擊破之ヲ入打撃ヲ與ヘ引續キ大
馬嵐ニ進出十八時三十分ヨリ同地附近帯ニ在リシ三六旅
七三團及決死第一旅隊ノ約二千ヲ攻撃シ一部ヲ北村
ヨリ東ノ南方ヘ主力ヲ西北方ニ潰走セシメタリ部隊主力ハ
二十時右溝ニ進出ス

(四) 鈴木討伐隊

昔陽東南方地區ニアル二九師第十旅ノ敵敵ヲ擊滅ス
ヘク主力ハ十四時一部ハ王厝昔陽及附近各村落
ヲ燹滅掃蕩シツアリ

二 旅團長ハ八雷命令ニ基キ田中大隊ノ山砲兵中隊ヲ
第三十七師團ニ復歸シ第四工師團大隊ノ山砲兵中隊
ヲ原田大隊ニ配屬スヘク獨親四旅作命令第六九號
ヲ下達ス

獨親四旅作命令第六九一號

獨立混成第四旅團命令

九月十六日 陽

一 旅團へ軍命令ニ基キ田中大隊ノ少佐兵中隊ヲ第三師團
 團ニ復歸シ第四師團大内少佐兵中隊ヲ原田大隊
 ニ配屬セントス

二 田中大隊長ハ山形兵中隊ヲ九月十七日陽泉出發ス
 家莊逸徒步行軍ニ基キ家莊ヨリ然道輸送ニ依リ候
 馬蹟ニ列ラシメ原田少佐復歸セシムハシ徒步行軍間歩
 兵小隊ヲ以テ掩護セシム

三 德五、原田地區警備隊長ハ歩兵小隊ヲ以テ前線
 從兵中隊ヲ掩護セシムヘシ

其ノ掩護担任ハ陽泉——壽陽間ハ德五地區壽陽
 ——荻家莊間ハ原田地區警備隊長トス

四 第四師團大内少佐兵中隊ハ壽陽到着ト同時ニ原田討伐隊長ノ指揮下ニ入ルヘシ

原田地區警備隊長ハ右ノ兵中隊ノ荻家莊ニ壽陽

間前所要ノ兵力ヲ以テ掩護スルシ

五 兩地區警備備隊長以下第三第四項中隊ノ行軍間

警備警備隊ヲシテ掩護セシムルモトス

六 予ハ陽謀陰謀戰鬪司令前ニ在リ

旅團長 片山少將

下達云 田中徳五大隊ニ口達大内山砲兵中隊砲台

大隊ニ電報後印刷交付

九月十七日

一 各支隊ノ行軍

(一) 前線討伐隊

早朝部隊ハ右前線出發途中一泊道ヲ盡滅シツ、十

二時高仁村ニ進出シ續キ十九時五時踏村(東嶺南薄東

方一料)ニ進出宿營セリ

(二) 鈴木討伐隊

夕刻首陽に出及鳳尾村ヲ経テ趙壁村及黄岩ノ
線ニ進出鼻着鎮附近ノ敵情ヲ搜索シ爾後ノ行動
ヲ準備ス

(三) 田中源田・徳池五各討伐隊ハ夫々陽泉・壽陽ニ
リテ北方作戰ヲ準備ス

一 旅團ニ以テ在藤中隊ヲ旅團直轄ニ弘野中隊及
箱田討伐隊小隊無線一分隊ヲ原前衛ニ復歸セ
ムハノ獨混回旅作命田第 六九三號ヲ下達ス
獨混回旅作命田第 六九三號

獨立混成第四旅團命令 九月十七日 時 陽 泉

一 田中討伐隊長ハ九月十七日陽泉ニ於テ在藤中隊
ヲ旅團直轄タラシムヘシ

二 原田討伐隊長ハ田中大隊ノ弘野中隊及箱
田討伐隊小隊無線一分隊(五號)ヲ速ニ陽泉ニ列ラ

シメ原前屬獨ニ復ル歸セシム

三ノハ陽泉殿關司令前ニ在リ

藤園 長 片山 少將

下達シテ 奮前日達後印副交付

九月十八日

一 各支隊ノ行前

一 鈴木討伐隊

早朝朝霧村出發及數縱隊トナリ途中道ヲ塞閉正

シテ在り此間(昔陽南)東約九料(及長身嶺昔陽南)

素六料)ヲ經テ十八時三十分昔陽ニ歸趨ス

(一) 北谷討伐隊

ノ 第三十六師團ノ進藤中隊迫撃砲一中隊及坂

部隊ノ中村中隊ヲ列車ニ依リ原前屬ニ復歸

シム

~~1685~~

161

1679

0882

2 山本隊ヲ權本ヨリニ派遣ス
3 部隊本部ハ明十九日早朝分水嶺出發陽白泉ニ
歸還スル豫定ナリ

162

~~1686~~

1680

一敵情

第五 戦闘後ニ於ケル彼我形勢

馬坊鎮及直隸縣附近ノ敵ハ大打直ヲ蒙リ其ノ企圖ヲ封殺セラレタリト雖モ尙ホ今次作戦地域内ニハ小罪群蟄伏シアルト共ニ直隸縣東方及北方地區並ニ榆社南方地區ハ相當有力ナル部隊アリ而シテニル師主力ハ從來ノ根據地附近ニ擧テ後退シテアラサルカトナリ

二我作戦部隊

我作戦部隊ハ概テ作戦發起位置ニ歸還シ爾後ノ行動ヲ準備中ナリ

第六 將來ノ参考トナルヘキ事項

参考事項中直ニ採用スヘキモノハ作戦中逐次注意指示トシテ示シアルモ尙ホ特記スヘキモノヲ掲ケルハ左ノ如ク
ノケリテ戦法及對ケリテ戦ノ教育ハ層層徹底セシムルヲ要ス

- 2. 携行駄馬及携帶糧食ハ最小限トシテ行動ヲ迅速ナラシムル如ク研究ヲ要ス
- 又將兵一同糧ヲ敵地ノ物資ニヨルト共ニ粗食ニ甘ニスルノ慣習ヲ平時ヨリ徹底セシムルヲ可トス
- 3. 部隊内ノ中、小隊トシテ行動ヲ演練ノ要アリ
- 4. 通信手ノ精力ヲ養成スルト共ニ技術上ノ訓練モ特ニ必要ナリ
- 5. 陣敵ニ對スル教習間ノ突破地形天候ノ克服要領及精神教育ハ二層ニ高調ノ要アリ

164 1682 ~~1688~~

第一期首中隊中一軍司受領セシ命令

一復依命甲第ニ六八號

第一軍命令

八月三十日十四時
太原軍司令官

一獨立混成第四旅團長ハ一軍命令甲第ニ三三號ニ依

第ニ七團團田中歩兵大隊ニ配屬中ノ出陣兵第百四

一聯隊大内大祐兩中隊ヲ速ニ檢次ニ於テ獨立混成

第九旅團長ノ指揮下ニ入ラシムヘシ

一第一項部隊ノ鉄道輸送ニ関シテハ第ニ野戰鉄道

司令部太原支部長ノ計畫スル所ニ據ル

第一軍司令官 篠 塚 義 男

下達法 專旨電報後印刷交付

一 軍作命 第二七〇號

第一軍 命令

九月二十日十八時
大原軍司令部

一 軍八一軍作命 第二六一號 據ル盧家莊軍連絡所
ヲ撤收セントス

二 軍連絡所 以上藤井少尉ハ九月二十日夕五三回前ヲ

撤シ太原ニ歸還スヘシ

一 軍作命 第六五九號 據リ其ノ指揮下ニ入ラシ
メタル防戩班ノ盧家莊ニ於テ銃者第六隊

ニ配屬スヘシ

第一軍司令官 條 掾 義 男

下達 茲 再旨 前前後後 印刷 交付

着 軍作命 第二七二號

第一軍 命令

九月二十日十八時
大原軍司令部

一 松塔嶺 南方及 康 康 南方 地區ノ 敵 我カ 包圍 圈

外ニ脱逃セントシツアルモ松塔鎮北方一帯ノ地區ニハ
今尚有リナル敵在ルモノ、勘シ

二軍人有リナル一部ヲ以テ松塔鎮南方及東南方ノ敵ヲ
捕獲スルト共ニ主力ヲ以テ松塔鎮北方地區ノ敵ヲ撃滅
セントス

三獨立混成第四第九旅團各々其ノ有リナル一部ヲ以テ
松塔鎮南方及東南方地區ノ敵ヲ捕獲スルニ努ムルト共
ニ速ニ其ノ主力ヲ奪見搦——松塔鎮——小西溝(同上東
微北十九料)ノ線以テ指回シテ松塔鎮北方地區ノ敵
ヲ索メテ撃滅スニシ

四予ハ太原軍司令部ニ在リ

第一軍司令官 篠塚義典

下達去電報後印刷交付(宛ハ空印投下)

一軍作命甲第ニ二三號

167

1685

~~1684~~

第一軍命令

九月廿三日
本軍司令部

一 諸隊ノ果敢ナル討伐依リ石太線陣方地區ノ共在
軍ニ對シ隨所ニ甚大ナル打撃ヲ興ヘ得タルモ全向
有リナル敵ハ各地ニ分散墮伏シアルモノ如シ

二 軍ハ第一期作戰ヲ復行シ敵兵約ニ該敵ヲ覆滅
掃蕩セントス

三 獨立混成第四第九旅團ハ又轉作戰後諸隊ヲ
概テ石太線——陽泉——和順——寒灘——長城
鎮——高窪——死村鎮——長旋鎮ノ線附近ニ於テ
前陣ノ準備ヲ整ヘタル後翌日項行動ヲ開始シ松塔
鎮及馬坊鎮間邊ノ地區ニ向ヒ第一期作戰ヲ復行
スヘシ

四 予ハ本軍司令部在リ

第一軍司令官 篠塚義典

下達法再旨電報後印刷交付

一 軍依命附第ニ七四號

第一軍命令

九月二十日
大原軍司令部

一 池ノ上部隊長野支隊兵二大隊山籠兵中隊基幹
部隊ハ昨六日正午頃以來及降嶺北方約三料附近秀
テ南面シ陣地ヲ占領セル約二四ノ敵ヲ銳意力攻
申ナリ

青野支隊ハ七日早朝高家山籠以嶽嶺東南十六
料ヲ又堤中隊ハ七日十時老村嶺ヲ六々出發シ永
野支隊ニ協力ノ目的ヲ以テ該敵ノ者後ニ向ヒ急
進申ナリ

二 軍ハ永野支隊正面ノ敵ヲ捕提撃滅セントス

三 獨立混成第百四隊團長ハ高産衣ニ集結シアル等々
部隊歩兵二大隊砲撃中隊中隊中隊中隊中隊
部隊ノ主力ヲ以テ永野支隊富田ノ敵有後ヲ索
メテ攻撃セシムシ

四予人太原軍司令部ニ在リ

第一軍司令部

篠塚義典

下達法傳旨電報後印刷送付宿多片山部隊

笠鈴討伐隊永野支隊吉野支隊堤中隊

六空軍中隊下之

一電依命用第三七八號

第一軍命令

九月八日十一時
太原軍司令部

一野戰自動車廠太原支廠長八百口太線復旧作

業間移動修理班一將校以下十名器材共ニ成ル

ハク速ニ壽陽ニ私遣シ同地ニ於テ自動車類ノ修理在

セシムヘシ

移動修理班共及ニ當リテハ在榆次自動車第三四

聯隊長ニ連絡シ其ノ中隊ト同行セシムヘシ

ニ獨立混成旅団旅團長ハ第一項修理班ノ壽陽ニ於テ

170

~~1694~~

1688

宿營口宿養ヲ區畧ス

第一軍司令官 篠塚義男

下達法 專旨 電報 後印刷交付

一軍休命中 第三九號

第一軍命令

九月十八日
大原軍司令部

一 敵第廿七軍及第廿九軍ハ高平以先ノ地區ニ於テ

十日頃以後攻勢ヲ企圖シアルヲ、如シ

二 軍ハ此ノ機ヲ捉ヘ該敵ニ痛撃ヲ加シテトヲ期ス

三 獨立混成第四旅團長ハ其ノ指揮下ニアル第廿六

師團ノ笠鈴部隊ヲ速ニ原所屬ニ復歸セシムヘシ

第一軍司令官 篠塚義男

下達法 專旨 電報 後印刷交付

一軍休命中 第三九號

第一軍命令

九月十五日
大原軍司令部

一 獨立輕裝甲車第五中隊ハ隨分ニ刻リ原所屬ニ復歸

1685

1689

スヘシ

一 獨立混成第四旅團長ハ第一期復行作戰修了後速カニ

輕裝甲車四輛ヲ京所屬獨ニ復歸セシムヘシ

二 第二頂部隊ノ鐵道運輸送ニ關シテハ第三野戰鐵道司

令部太原支部長ノ計畫スル所ニ據ルヘシ

第一軍司令官 篠塚 義男

下達法 要旨電話後印刷交付

一 軍作命甲第ニ八三號

第一軍命令

九月十八日十八時
太原軍司令部

一 第十師團第二陸上輸卒隊ハ軍ノ戰鬪序列ヨリ除キ

内地ニ歸還セシメラル

二 各師旅團長、軍經理部長、補給諸廠太原支廠長

太原、臨汾、運城、介陸軍病院長、北支那防疫給水部

太原支部長、太原工程隊長、第八十五野戰郵便局長、

第二頂部隊ノ下士官以下ヲ九月二十五日太原ニ於テ京所

同	同	同	同	同	同	同	同	陸軍輜重上等兵
							一等兵	
佐藤平治郎	最相重志	富田正一	渡邊玉市	杉山豊	田原茂	平尾春太郎	石井竹夫	金谷政勝

三 第四十師團長ハ二軍作命申第三四號ニ依リ配屬セラレタ
 ル軍屬託和田庫吉並ニ臨時陣地構築班第一班器
 具器材共ニ九月二十五日太原ニ於テ原所屬ニ復歸セシムヘシ
 四 左記者ハ九月二十五日原所屬ニ復歸スヘシ
 左記

~~1697~~

五 各師(旅)團長及電信第九聯隊長第十師團第二
 陸上輸卒隊内地歸還ニ付別紙ニ依リ警備備要員ヲ
 九月二十二日迄ニ夫々當該部隊長ノ指揮下ニ入ラシムヘシ
 六 第十師團第二陸上輸卒隊長ハ臨時陣地構築木班ノ兵
 器器具其並ニ器材ヲ六百ニ於テ野戰兵器廠六百支廠ニ
 返納スヘシ

第二軍司令官 篠塚義男

下謹法 印刷交付

一軍作命甲第二八二號別紙

警備備要員差出區分表

差出部隊	區分	被配屬部隊	人員	補	要
第三十六師團	野戰自動車廠	野戰自動車廠	五		
第三十七師團	運城陸軍病院	運城陸軍病院	四		
第四十一師團	臨汾陸軍病院	臨汾陸軍病院	四		
	第一軍司令部參謀部	第一軍司令部參謀部	四		

一軍作命申第三四號

第一軍命令

九月十三日十時
大原軍司令部

考 備	電信第九聯隊 太原野戰郵便局	第十六旅團 野戰自動車廠來遠鑛出張所	成		混		立		獨	
			第九旅團 太原防疫給水部	太原工程隊	第四旅團 野戰貨物廠沁縣出張所	野戰貨物廠潞安出張所	同 分院	太原陸軍病院	第一軍 經理部	第三旅團
一九日 任務ヲ交代セシムルモノトス	五	五	四	四	七	二	四	八	四	兵地自動車第百七十 九中隊ノ人員ヲ使用スル コトヲ得

一 獨立混成第四旅團長ハ第一期復行作戦ノ終了ニ伴ヒ
第三十六師團ヨリ配屬セラレアル歩兵中隊迫惠一中隊ヲ
原所屬ニ復歸セシムヘシ

二 獨立混成第九旅團長ハ第一期復行作戦ノ終了ニ伴ヒ
第三十六第四十師團ヨリ配屬セラレアル諸隊並ニ兵站自
動車第八中隊ノ小隊ヲ速ニ原所屬ニ復歸セシムヘシ

三 前項ノ鐵道輸送ニ關シテハ第一期野戦鐵道司令部太原
支部長ノ計畫スル所ニ據ルヘシ

四 予ハ太原軍司令部ニ在リ

第一軍司令官 篠塚 義男

下達法 要旨電報後印刷交付

一軍作命甲第二八七號

第一軍命令

九月十六日午後
太原軍司令部

一 獨立混成第四旅團長ハ安達部隊田中大隊ノ山砲兵

176

~~1700~~

1694

中隊ヲ成ルハ速ニ原所屬ニ復歸セシムヘシ

二獨立混成第九旅團長ハ軍作命甲第六四號ニ基キ第

四十一師團長ノ指揮下ニ復歸セシムヘキ部隊申付内出砲

兵中隊之前命令ニ拘ルコトナク速ニ壽陽ニ到ラシメ同地ニ

於テ獨立混成第四旅團長ノ指揮下ニ入ラシムヘシ

三獨立混成第四旅團長ハ前項部隊ノ壽陽到着ト共ニ之

ヲ指揮スヘシ

四第一第二項部隊ノ鐵道輸送ニ關シテハ第一野戰鐵道

司令部太原支部長ノ計畫スル所ニ據ルヘシ

第一軍司令官 篠塚 義男

下達法 要旨電報後 印刷交付